

横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	久 良 岐 保 育 園
報告書作成日	2007年1月11日 (評価に要した期間4か月)
評価機関	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター

評価方法

自己評価方法 (実施期間:2006年9月1日～ 2006年10月2日)	自己評価前に新人、中堅、ベテラン、非常勤職員に分かれて話し合い、全職員が自己評価に取り組んだ後、乳児・幼児棟ごとに内容の把握・確認の協議・検討を繰り返し行い、全体を集約した。
評価調査員による評価方法 (実施日:2006年11月21・28日)	評価調査員(2名)による現地視察、書類確認、面接ヒアリング調査(法人常務理事、園長、主任、栄養士など)を行った。
利用者家族アンケート実施方法 (実施期間:2006年10月10日 ～2006年10月24日)	全利用者129名の保護者(世帯)を対象とし、事前に法人理事長と評価機関(市社協横浜生活あんしんセンター)の連名でアンケート依頼文を連絡帳に挟み込み、園から手渡しで配布し、その後2～3日後に本アンケートを同様に園から手渡し、約2週間の回答期間を設け、匿名で直接評価機関に返送してもらった。
利用者本人調査方法 (実施日:2006年11月14日)	園児129名のうち、予め園側にリストアップを依頼した中から10名(園児の7.8%)を対象に評価調査員2名が保育観察(0～4歳児4名)、本人聴き取り調査(満5～6歳児6名)を行った。

評価結果についての講評

〔施設の特徴〕

- 久良岐保育園は昭和26年に神奈川県立久良岐母子寮に併設された園として事業を開始した歴史の長い園です。運営母体の法人は、昭和29年に(財)神奈川県母子福祉協会の設立後、昭和45年に社会福祉法人久良岐母子福祉会へと発展的な組織変更がされましたが、現在に至るまで、一貫して乳幼児や保護を必要とする家庭等に対する福祉事業(保育園をはじめ、母子生活支援施設、乳児院の運営)を行っています。
- 当該園は京浜急行線あるいは市営地下鉄線「弘明寺駅」から徒歩10分ほどの閑静な住宅街にあります。園内には、成長・発達段階に応じて使い分けられる2つの園庭があり、子どもたちが思い思いのびのびと屋外遊びを楽しんでいる姿が印象的です。
周辺には弘明寺公園をはじめとする大小様々な公園や歴史ある弘明寺観音、賑やかな弘明寺商店街などもあり、園外保育も盛んに行われています。
- 社会福祉法人久良岐母子福祉会の基本理念である「強く、正しく、明るく」は、大らかな逞しさと共に細やかな愛情を感じさせる万葉集の心を取り込んで定められたものです。
具体的な園目標には①心身ともに健康に育てる、②工夫し考えて遊ぶ力を育てる、③豊かな体験を通し、感性を育てる、④保護者や地域のつながりの中で育てる、という4つの視点が込められ、全職員が理解・実践に努めています。
今回、調査にあたって行われた家族アンケートからも、73.6%の保護者がこの保育目標等を概ね理解し、さらにそのうち94.2%から高い支持(賛同)が寄せられています。
- 親子三代に渡る利用例もある地域に溶け込んだ伝統園ですが、更なる地域との連携を模索し、自治会等への積極的な参加(関わり)に取り組むと共に、地域に向けた育児支援活動への取り組み強化や環境配慮の取り組み(ゴミ30%減量化推進活動)を実践する等、時代の変化や地域特性に合わせた改革も積極的に展開しています。

〔特に優れていると思われる点〕

①子どもが伸び伸び健やかに育つ健康増進の実践

- 緑豊かな自然環境に恵まれた園では、思いきり駆け回ることのできる約1千平米の広い園庭で子どもたちが自転車を乗り回したり、竹馬やアスレチック、ボール投げなど、活発な遊びが繰り広げられています。その成果は県内約10園が参加するソフトティーボール大会(ゴムボールをティーの上に置いて、バッティングする幼児向けの野球)でも過去に優勝した実績にもあらわれています。
また、中庭の乳児用園庭には、ログハウスのおままごとスペースや砂山、砂場、遊具、浅いプール等、子どもの成長・発達段階に合わせ、遊ぶ意欲が膨らむスペースが随所に設置されており、子どもたちは園の理念に沿った明るく、逞しい様子を見せています。
- 園外保育時には所有するマイクロバス等で、海の公園(金沢区)やソレイユの丘(横須賀市)等に出かけることもありますが、日常的には近隣にある西光寺や久良岐公園、わんぱくハウス永田みなみ台公園こどもログハウス、弘明寺公園などへ散歩に出かけています。子どもたちは、ドングリ拾いや土手登りをしたり、坂道を下って近くを走る京浜急行電車を見たり、弘明寺商店街などの雰囲気を知るなど、様々な体験を通して地域文化に触れ、心身ともに健やかに成長しています。
- 外部から講師を招き、月3回、3・4・5歳児に体育指導を行い、月1回幼児に音楽指導、月2回、4・5歳児に太鼓指導が行われています。各講師から助言・指導を受けながら、子どもの運動能力や音感指導による聞く力などを高める積極的な取り組みがされています。年長児で結成している和太鼓チーム「いぶき」は、法人主催の「くらき祭」や地域の夏祭り、星槎国際高等学校の学園発表会でも力強い見事な演奏を披露しています。

○毎月給食委員会が開かれ、「手洗い」・「野菜」など、月間テーマの設定による食育指導により、手洗いの徹底、苦手な野菜の克服など、生活指導につなげています。

子どもたちに人気の高い「レストランごっこ」と称される食育活動では、栄養士を交えた食べ物の話しや食事マナーなどを体験し、おいしく楽しい食事の提供により、子どもたちは招待される日を心待ちにしています。

栽培計画では、各クラス(1～5歳児)の年間計画を立て、かぶ・人参など14種類の種をプランターに蒔き、水やり・草取り・害虫対策などに取り組み、保護者と一緒に収穫しています。園では栄養価や調理の仕方、素材本来の甘み、苦み、おいしさなどを説明し、収穫後持ち帰った野菜を家族で味わってもらうことなどを通した食育にもつなげています。

○子どもの発育に関して身長・体重の成長曲線が子ども毎に作成・把握されており、栄養士と各クラス保育士の連携により肥満や少食など、栄養に関する検討が進められています。毎年5月の歯科健診では、歯科衛生士により2～5歳児を対象にした歯磨き実演指導も行われています。

また、2～5歳児クラスには歯ブラシ専用の殺菌庫を設置し、いつでも清潔な状態で使用できるように配慮されています。H18年度の歯科健診結果では、歯磨き指導による園児の口腔衛生面における著しい改善結果(虫歯罹患者の減少・改善)となって表れています。

②法人の組織力を活かした人材育成の取り組み

○園のダイナミックな活動を支える原動力として「明日の久良岐を考える検討会」や「人事考課」、「研修体系化」など法人内に10のプロジェクトチームによる取り組みがあります。このプロジェクトは、法人系列の各施設職員も参画し、現場の課題や問題点をきめ細かく吸い上げ、法人全体のサービスの改善・向上につなげる仕組みとなっています。

○毎年度ごとに職員研修計画一覧(人材育成と研修計画が一体となったもの)が作成され、職員の経験年数別に4段階(経験1年未満<新任職員>、経験5年未満<新任～中堅職員>、経験5年以上<中堅職員>、指導的職員)に分け、それぞれに期待される職員像も期待値として設定されています。年度末には、「1年間の反省と来年度に向けて」というシートを活用し、職員一人ひとりが自己評価を行い、園長との職員面接では翌年度の個別目標設定の材料とするなど、一連のプロセスが確立されています。

○職員研修計画一覧では、法人全体研修4回(個人情報保護、発達障害、子どもの表現活動など)、園内研修(発達、食育など)、他園見学をはじめ、外部派遣研修が組み込まれ、常勤・非常勤を問わず、必要な職員が受講できるしくみが確保されています。

研修に参加する職員は事前に研修目標と心構えを、研修後には報告書(復命書:学んだ内容や評価・感想、今後の職務に生かせる点等を記載)が作成され、この記録が次年度の研修計画に反映されています。

○法人全体で理念をより高めていくため、「コンプライアンス(法令遵守)委員会」を設け、職員職務心得をはじめ、個人情報保護ガイドラインが作成されています。

また、公益通報者保護規定をH18年4月から施行しており、職員等からの法令違反行為、倫理上の問題行為などの相談又は通報の適正な処理のしくみを定め、不正行為などの早期発見と是正を図り、コンプライアンス経営の強化・徹底を図っています。

③保護者や地域との連携・交流によって育まれる子どもたち

○創立50年余の歴史があり、卒園生には親子3代にわたるケースもあります。散歩途中には園と関わり深い地域の方々も多く、子どもたちが挨拶を交わすことはもとより、家々の軒先には夏ミカンや野菜などがさり気なく置かれてあったり、公園の動物の糞などが取り除かれてあったり、地域の人たちが子どもたちの健やかな成長を温かく見守ってくれています。

- 法人主催のくらき祭が年1回開催され、地域の方々により法人(園)を理解してもらうよう努めています。くらき祭は総合的かつ多機能な児童福祉施設の専門性を生かしながら、来場者が楽しめる内容となっており、H17年度は年長児による和太鼓披露や乳児院の看護師・保育士による救急蘇生法の実技指導、栄養士による栄養相談、学童部のパトロール隊、親子で簡単な工作コーナーなど、地域との密接な交流・連携が図られています。
- 自主運営の保護者会組織があり、毎年1月には保護者会主催による「おもつき大会」等が開催されています。もつき大会終了後には、保護者と連携した災害時に備えた園児の引き取り訓練も実施されています。
また、子どもと一緒に楽しめる観劇やいちご狩りなど、保護者会主催の交流イベントや各種委員会活動を園と連携しながら取り組んでおり、保護者と職員(園)の信頼関係を築く一助となっています。
- 年4回発行の法人広報誌「久良岐便り」に「こどもシリーズ」のコーナーを設け、子育てに悩む保護者の素朴な疑問や楽しく子育てするコツなどを情報提供しています。この「久良岐便り」は法人独自のホームページでも閲覧できるようになっています。
また、日常保育の様子は、玄関横ホールに設置されたホワイトボードに「今日の保育」と題して毎日掲示され、お迎えの保護者が把握できるようになっています。
保育参加は「参観」ではなく、実際に保護者に保育に携わってもらうことで、子どもや保育者の日々の関わりを理解・体験する機会にしており、毎月行われる給食試食会では保護者の意見や要望を直接聞く機会にもなっています。
- 医療的配慮が必要なケースには、保護者や医療・療育等の関係機関と連携し、対応マニュアルを作成するなど、何らかのハンディキャップがあっても、保育を通して本人が持てる力を発揮できるよう支援しています。

【特に工夫や改善などを期待したい点】

①更なる安全管理の取り組みを

- 園独自に保護者向けの安全管理・安心メール(災害や事故・ケガ発生時の連絡システム)の配信や年長児用園庭の周囲に防犯用フェンスを設置する等、安全管理に向けた努力を行っていますが、家族アンケートでは「外部からの不審者侵入に対する備え」について、昨今の世相や子どもを取り巻く犯罪・事件の多発状況から不安を抱いている保護者も少なくないように思われます。
- また、園では子どもたちに様々な体験(例えば、園外保育での土手登りなど)を通じた保育を行っています。「多少のケガは子どもには付きもの」ということあるかと思われませんが、子どもの安全な環境配慮(予防的対応策を含む)への更なる取り組みや工夫を期待します。

②より保護者の声を汲み取る(言いやすい)雰囲気づくりの工夫を

- 園では苦情解決のしくみを設けるとともに、「意見箱」を設置したり、日々の連絡帳などでも保護者からの要望や意見等を汲み取り、改善するよう努めていますが、家族アンケートでは「不満や要望を気軽に言えるか」について、回答者の約20%がやや不満に感じているようです。
ともすれば潜在しがちな利用者の不満や要望を「サービスの質向上のための貴重な情報源」と捉え、より利用者一人ひとりが気軽に声を出しやすい雰囲気づくりに向けた工夫を期待します。




③環境への配慮の考え方を方針や目標の一つに位置づけを



- 現在、法人内の委員会活動(職員による環境委員任命)を中心に様々な取り組み<例えば、毎年開催される法人主催の「くらき祭」でのG30(ゴミ30%減量化)推進のための啓発活動や業務用生ゴミ処理機による給食残食の有機肥料(堆肥)化活用など>が実践されていますが、運営方針や目標に位置づけるまでには至っていないことが惜しまれます。
- 環境にやさしい法人(施設)に向けた姿勢をより明確に打ち出すことで、市民や利用者、地域からの安心や信頼もより一層高まるものと思われます。



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念や基本方針は、子ども本人を尊重し、①心身ともに健康に育てる、②工夫し考えて遊ぶ力を育てる、③豊かな体験を通し、感性を育てる、④保護者や地域のつながりの中で育てる、の4つの意味合いを持つ「強く、正しく、明るく」となっており、園内の掲示や職員会議等を通し、全職員に理解・実践されている。 ・地域の特性や保護者の就労状況に応じ、柔軟性のある保育計画が作成されており、入園時や年度当初に説明されると共に、変更があった場合も、保護者に説明したり、園だより等によるお知らせをし、日常的な小さな変更事項等については必ず目に触れる場所に置かれたクラスごとのホワイトボードによる掲示や口頭、あるいは連絡帳等により周知している。 ・各年齢の発達状況に応じて、年間指導計画や月間カリキュラム、週間指導計画等が作成されており、言葉で表現できない子どもの気持ちも身振りや様子(しぐさや表情)から汲み取って、指導計画に活かしている。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前には子どもを同伴した保護者との面談を行い、書類(児童票や健康台帳等)の確認とともに、子どもの発達状況などの観察も行い、その記録は入園決定後のきめ細かい保育のために役立てられている。 ・新入園児受け入れマニュアルに基づき、短縮保育(ならし保育)をはじめとして、留意すべき事柄を踏まえて保育が行われている。また、初めて園に子どもを預ける保護者の不安を軽減すべく、子どもの様子を細かく伝えたり、クラス単位の懇談会時に新入園児の紹介を行うなどの配慮を行っている。 ・月齢、年齢に応じて成長度合いを配慮し、なおかつ保護者の就労状況に基づく要望も取り入れて、指導計画を作成し、成果を踏まえた上で見直しを行っている。
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃マニュアルに基づく定期的な清掃以外にも、逐次汚れた時に清掃が行われ、園内は清潔に保たれている。 ・採光や通風は十分に確保されており、通年使用の日よけルーフや夏期使用のスカイシェード等、季節に応じた紫外線防止策が施さ



	<p>れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各室に温度・湿度計があり、適切な室内環境が保たれている。 ・年齢に応じ、園児の身体を清潔に保つための沐浴やシャワー設備があり、マニュアルに基づき、適切に清掃・管理されている。 ・園庭が広いので、年長児クラスと年少児クラスで場所を分けて利用しており、それぞれの年代の成長・発達に応じた遊び方ができる設備が整っている。 ・食事と午睡は同一室内で行われるが、食後には速やかに午睡に移れるよう、スペースの使い方に工夫があり、またカーテンや衝立等の使用により、静かに睡眠できるように配慮している。
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・0～1歳児用に作成されている個別指導計画とは別に、特に配慮を要する子どもについては、保護者からの要望に応じ、面談を行い、個別指導計画に反映するように努めている。 ・保護者が児童票や健康台帳等に子どもの様子や要望を記入することができるようにしている。 ・これらの記録はプライバシー保護の観点から適正に保管されると共に、適切に活用され、日々の保育や進級時のスムーズな引継ぎ(申し送り)に役立っている。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する子どもの保育には中部地域療育センターの巡回指導を年2回受けて、指導計画に反映している。 ・H18年度から「特別な支援を必要とする子ども」を受け入れており、職員会議等の場で検討や情報共有を図っている。また、全職員で学習できる機会や研修の計画性について、更なる支援のステップアップを目指している。 ・保護者の同意を得て、医療・療育等の関係機関と連携しており、特に医療的配慮が必要な場合には、保護者と話し合いの上、対応マニュアルを作成するなど、何らかのハンディキャップがあっても、保育を通して本人が持てる力を発揮できるよう努めている。 ・アレルギー疾患児への対応は、与薬や給食等の面において配慮されている。特に園児が楽しみとする給食については、材料除去(除去食対応)による見かけの違い(形状や色合い)などに気を配って他の園児との差異を少なくするように努めている。 ・国籍や生活習慣が異なる園児に対しては、その違いを尊重(例えば、世界の国々の国旗や文化を紹介する機会等を設ける等)して、他の園児と違和感なく過ごせるように配慮している。 ・また、意思疎通が難しい場合には通訳ボランティアの起用を考えているが、今までに同じ国籍の保護者が新入園の方に対して通訳的な役割を果たし、フォローしてくれた事例もあり、保護者からの自発的な申し出があれば、保護者同士による助け合いも考えられている。

I-6 苦情解決体制



- ・入園説明会時などに、苦情解決のしくみく苦情受付担当者(園長)と解決責任者(法人常務理事)等の存在を説明すると共に、入園のしおりに明記している。また、第三者委員(外部の保育園長や近隣寺院住職)の氏名、連絡先も明記されている。
- ・園入口付近には意見・要望を汲み取る「意見箱」が設置されている。投稿だけではなく、日々の送迎時や懇談会時などの口頭による意見、要望や連絡ノート経由で寄せられるものについても汲み取るよう努めている。また、困難な問題を抱える保護者からの相談にも随時対応している。
- ・苦情解決マニュアルや受付書式が整備され、苦情を職員が受ける場合と、第三者委員に相談する場合の具体的な手続きや流れが分かりやすく図解され、職員会議等を通じて、共有できる仕組みがある。
- ・今までに寄せられた苦情や要望は、担当者や解決策等が細かく記録され、トラブル解決のためのデータとして活用されている。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容【遊び】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員によるおもちゃ係（各クラスから１名づつ選出）があり、子どもの成長・発達に合ったおもちゃの検討や管理、与え方、制作活動を行っている。 ・乳児室では子どもが取り出しやすい床と同じ位置や背丈に合わせた棚におもちゃがあり、低い壁掛けにはおもちゃが付いているなど、自由に取り出せる工夫がされている。 ・幼児では自由に遊ぶ活動と課題をやり遂げる活動のバランスを図るようにしている。 ・子どもたちの間で忍者に興味湧き、忍者ごっこが流行ったことがある。そのイメージをつなげて保育活動に取り入れ、運動会では忍者の踊りを行い、12月に実施される生活展（作品発表会）では、忍者屋敷を作ることを課題とし、園児たちは張り切っている。 ・園の卒業生は親子3代にわたるケースもある。散歩途中には園と関わりが深い地域の方々が多く、挨拶はもとより、家々の軒先には夏ミカンや野菜などが置かれてあったり、公園の動物の糞などが取り除かれてあったり、地域の人たちが子どもたちの健やかな成長を見守ってくれている。園児と地域の人たちとの会話や交流は日常的に行われている。 ・乳児の自由なお絵書きが園内に掲示されている。例えば、11月の七五三の千歳飴袋制作では、子どもが思い思いに作った自由作品となっており、玄関ホールに掲示されている。また、園外保育（散歩）時に拾った落ち葉やドングリを使った作品も室内に飾られている。 ・保育観察時に、おままごと道具のフライパンを取り合って、子ども同士ケンカになる場面が見られたが、先生が両者の言い分を聞いて「終わったら貸してあげるよね。」などと互いに理解し合えるよう言葉がけを行っていた。 ・外部から講師を招き、月3回3・4・5歳児に体育指導をはじめ、月1回幼児に音楽指導、月2回4・5歳児に太鼓指導が行われている。各講師から助言・指導を受けながら、子どもの運動能力や音感指導による聞く力などが高められるよう積極的に取り組んでいる。
<p>Ⅱ－１ 保育内容【生活】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食は、発達段階に分けた3グループにそれぞれ保育士がつき、離乳初期の子どもたちへは保育士が子どものペースに合わせて与えている。 ・保育観察の中で、離乳中期の子どもたちへはほうれん草やシメジをスプーンで持ち上げたり、手づかみで口に入れる子への援助を行っていた。また、離乳後期の子どもへはスプーンを持って一人



で食べることに對して「上手ね」と言葉を添えていた。

- ・毎月1回給食委員会が開かれ、食に関する報告が行われるとともに、「手洗い」・「野菜」など月間のテーマ設定による食育指導に取り組んでいる。
- ・盛り付ける量を「少しだけ」・「もっとください」等と子ども自身が保育士に伝える配膳方法への取り組みが行われている。
- ・また、「レストランごっこ」と称される食育活動を行い、栄養士を交えた食べ物の話しや食事マナーなどを体験でき、子どもにとって楽しい食事の場になっている。
- ・残食量が多い献立も材料の配分や味付けの変化・加減で何度か提供し、繰り返して食べることで少しずつ食べられる量を増やしている。
- ・子どもに人気のメニューを把握しており、おやつには通常の手作りお菓子のほか、焼きそばや栄養士のアイデアによる「特製肉まん」を出したりし、残食になりやすい野菜の有効活用も図っている。
- ・H16年度から保護者との対話によるニーズ把握のため、毎月「保育参加と給食試食会」を継続して行っている。給食内容や自分の子どもだけでなく、クラスの様子や日々の園での取り組みに対する理解を促している。
- ・午睡は午睡専用の別室や衝立が設けられ、遮光カーテンを用いて薄暗くするなど、心地よく眠れる環境を整えている。保育士は、保育研究の中でどのような子守唄がよいか検討し、子どもが入眠しやすいように子守唄を歌っている。
- ・日々の連絡帳には、「お散歩中、お漏らしせずには帰園してからトイレですることができました。」と保育者が記入し、「朝トイレで『でたよ。』と嬉しそうに言う。」など、保護者が家庭での様子を記載していることからトイレトレーニングの連携・成果が図られている様子がうかがえる。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔健康管理〕



- ・朝受け入れ時の視診、保護者からの情報や連絡帳からの把握に始まり、入眠前の体温検診、睡眠、食事、排泄など、健康状態の把握に努めている。
- ・子どもの健康管理に関しては、健康診断・歯科健診の結果、既往歴、体質、予防接種状況、身体測定結果などの個人健康診断記録が健康台帳などに整理され、個人別にファイルされている。
- ・また、身長・体重の成長曲線が子ども毎に作成されている。これらにより、園児の発育状況が把握され、肥満や少食など栄養に関する検討が各クラスの保育士と栄養士の連携により進められている。
- ・薬は必ず1回分を内服時間、量などの詳細を連絡帳に記入し、担

	<p>任との連携を図った上、服薬を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱が 38 度を超えると保護者に連絡を入れるほか、熱のない場合でも嘔吐や下痢がひどい場合は、多目的室に布団を敷いて静養させ、状況を見守りながら保護者への連絡や連絡帳に記載するなど、子どもの体調変化時には状況に応じきめ細かい対応を図っている。 ・毎年 5 月に嘱託歯科医による歯科健診を行っている。その際、歯科衛生士により 2～5 歳児を対象に歯磨きの実演指導も行っている。2～5 歳児クラスに歯ブラシ専用の殺菌庫を設置し、いつでも清潔な状態で使用できるようになっている。 ・H18 年度の歯科健診結果では、虫歯罹患患者数 43 名(受診者数 124 名)で、df 指数〔(乳児の処置指数+未処置指数)÷受診者数〕は、昨年度 2.06 が本年度は 1.52 となっており、歯磨き指導による園児の口内衛生の改善がうかがえる。 ・感染症が流行した時は、感染者の個人情報に配慮しながら、園独自の安心メール(災害や事故・ケガ等発生時の連絡システム)と掲示で他の保護者に周知している。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理〔衛生管理〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理衛生マニュアルや清掃マニュアルは、毎年度変わりに見直され、6～8 月頃に更新されている。また、更新された内容については、毎月行われる職員会議などを利用して、職員に周知徹底されている。 ・管理衛生マニュアルがあり、調理従事者の衛生管理や調理器具の衛生、使い捨て手袋の使用、食器、食缶、検食、食材検収、調理中・後の食品、ゴミ処理、調理室の衛生、清掃について、手順や留意点がわかりやすくまとめられている。 ・また、クラスごとにプールマニュアルがあり、維持管理(清掃、汚染防止、消毒等)と使用方法、留意点、子どもの動き、リーダー・サブ職員の対応が明記されている。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理〔安全管理〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアルがあり、園内外の安全点検ポイントを実際の保育場面、点検箇所ごとに設備・環境上の点検事項、指導上の配慮事項等を定め、簡潔にわかりやすく記載されている。 ・緊急連絡体制として、保護者向け安心メール(未登録者には緊急連絡網により連絡)が活用されるほか、「防災・防犯・ご相談」ファイルにある関係機関との関わり方マニュアルで地元消防署や警察署、市・区等の緊急連絡体制も確立されている。 ・事故や災害発生を想定した地震・災害マニュアルや緊急時対応マニュアルがあり、園内・外保育中の対応等が明記され、実際の通報訓練等も行われている。 ・総合防災訓練年 1 回、防災消火訓練が月 1 回実施されている。危機管理対策の一環として、H18 年度より保護者向けに安全管理・


安心メール(災害や事故・ケガ発生時の連絡システム)を園独自で始めている。

- ・危機管理マニュアルの中に報告・連絡・相談マニュアルがあり、その伝達方法(①報告・連絡・相談者→②クラスリーダー→③各棟のチーフ→④園長)や事故発生を減らす方策(①事故報告書提出→②事故分析・対策の検討→③対策の実施→④対策の再検討)として、事故報告・ヒヤリハット事例報告を記録化し、分析している。
- ・H17年度の事故報告は、107件(その内、医療機関受診8件で2回以上の通院加療5件)となっている。
- ・小さなケガや与薬のミスも「アクシデントレポート」で園長に報告するしくみになっている。月末に「アクシデントレポート」の統計をとり、次月の安全管理に活かすとともに、クラス単位で振り返る機会を作っている。
- ・不審者侵入に対する防犯マニュアルがあり、1～4段階の対応レベルに応じて、隔離・通報、子どもの安全を守る、事後の対応と措置、園外保育中に被害が発生した場合のフローチャートを含み実践想定したものとなっている。
- ・また、防犯対応訓練は、職員が園庭の安全確認や行事の際のセキュリティの重要性を認識する機会となっている。保育士は防犯ベルを携帯し、園外保育に出かけている。



Ⅱ-3 人権の尊重




- ・むずかる子や泣く子への対応、食事や排泄など、一人ひとりの子どもを大切にしている保育の様態が、随所で観察されるなど、「虐待や人権」に関する研修を通して、子どもの権利を守るための基本姿勢が職員に浸透している。
- ・多目的室は、カーテンで仕切ることできるほか、おままごと棚で仕切ったコーナーもあり、プライバシーを守れる場所になっている。排泄の失敗(おもらし)をした子どもには、他人の目に触れないドアのついたシャワー室を使い、着替えを行っている。
- ・ボランティア対応マニュアルや実習生受け入れマニュアル(実習のしおり)に、知り得た情報の守秘と個人情報保護、子どもの人権について明記され、オリエンテーション時などに周知徹底されている。
- ・また、職員に対しては就業規則のほか、法人独自で作成した個人情報保護ガイドライン等により、周知している。H18年度の法人全体研修でも顧問弁護士による「個人情報-仕事をする上で何に注意するか-」というテーマで、学習の機会が設けられている。
- ・保護者と子どもの関わり方や子どもの様子などで、気になることがあれば迅速にチーフや園長に報告があがるシステムを確保している。



	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスクなケース(虐待等が疑われる等)の場合には写真を撮ったり、家庭をさり気なく訪問するなど、保護者とコンタクトを図っている。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には入園説明会をはじめ、クラス懇談会、保護者会などの折に園の保育方針が理解されるよう説明している。日常の保育や子どもの様子を連絡ノートや年4回発行の法人広報誌「久良岐便り」を活用して、情報提供している。 ・法人独自のホームページの写真(園での子どもの様子)を毎月更新している。個人情報保護のためにパスワードが設定されている。 ・H18年度からは危機管理対策の一環として、保護者向け安全管理・安心メール(災害や事故・ケガ発生時の連絡システム)を園独自で始めている。 ・子どもの送迎時に口頭でその日の様子を保護者に伝えるほか、連絡ノートも活用し健康状態やその他変わったことがある場合に情報提供している。 ・乳児クラスや幼児クラスの様子は、玄関横ホールに設置された白板に「今日の保育」と題して生活内容が毎日掲示され、お迎えの保護者が活動内容を把握することができるようになっている。また、クラス前には「明日の予定」などの連絡事項が記載されている。 ・保護者からの相談には担当者だけでなく、複数職員の意見が取り入れられるよう園長やチーフと連絡を取りながら対応するよう努めている。相談を受けた職員→担任→主任→園長など、バックアップするシステムがある。 ・毎月園だよりを発行するほか、年4回法人広報誌の「久良岐便り」を発行している。他に保護者会発行の「広報くらき」もあり、園への要望や質問など、保護者会とのやり取りも掲載されている。 ・自主運営の保護者会組織があり、年4回程度開催されている。毎年1月には保護者会主催による「おもちつき大会」が園庭等を活用して行われ、盛況である。 ・おもちつき大会終了後には、災害時に備えた園児の「引き取り訓練」(一度に100人以上の園児の引き取りに対応する訓練)を園(担任)と連携して実施している。訓練を通じて、園児の安全な受け渡しに予想外の時間がかかることを教訓としている。

評価領域Ⅲ 地域支援機能



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立後 50 余年を経ているために、地域との関係が良好な園であり、地域住民から積極的な提案や要望が投げかけされており、子育て支援ニーズの把握がしやすい状況である。 ・ 近隣公園での園外保育時に、園児以外の親子連れから気軽に声を掛けられたり、相談されたりすることも多い。 ・ 市・区域の他園や行政関係者等と意見・情報交換の場を設け、子育て支援ニーズを汲み取る努力をしている。 ・ 同一敷地内で学童保育が行われているほか、地域と共生する形での法人イベント「くらき祭り」で、栄養相談や絵本の読み聞かせ等の情報提供を行っている。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「親御さんのための子育てよろず相談」を実施し、保育士、栄養士、心理士等の専門家が相談業務を担当している。 ・ 年 4 回発行の法人広報誌「久良岐便り」に子育てに悩む保護者の疑問や楽しい子育てのコツなどの情報を掲載している。この「久良岐便り」は法人独自のホームページでも閲覧することができる。 ・ 関係諸機関や地元自治会等との関わりについては、マニュアルがあり、個人情報部分を除き、職員誰もが閲覧できるようになっている。この連携に関しては園長等が窓口となり、関係づくりを行っている。


評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人主催のくらき祭を年 1 回開催し、地域の方々に（社福）久良岐母子福祉会をより理解してもらい、総合的・多機能な児童福祉施設の専門性を生かしながら、来場者が楽しめる内容となっている。 ・ 子どもは地域の中で育つものと考え、連携を密にするためにも、H17 年度は年長児による和太鼓披露や乳児院の看護師・保育士による救急蘇生法実技指導、学童部のパトロール隊、親子で簡単な工作コーナーなどが行われている。 ・ 戸塚公会堂で行われた星槎国際高等学校の研修成果発表会に招かれ、園児 27 名による「いぶき和太鼓」の演奏を披露している。 ・ 地域の連合町内会主催の「中里夏祭り」には、園児の和太鼓「いぶき」が演奏参加している。また盆踊りや出店、公園清掃などにも参加している。 ・ 毎年秋には県内 10 園程度が加盟しているソフトティーボール大会（ゴムボールをティーの上に置いて、バッティングする幼児向



	<p>けの野球)を川崎球場で行い、他園児との交流を積極的に図っている。H17年度は園から出場した「いぶきチーム」が並み居る強豪を抑えて優勝し、「ひびきチーム」も3位入賞に輝いている。</p>
<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人パンフレットをはじめ、年4回発行の法人広報誌「久良岐便り」、法人独自のホームページなどにより、地域や関係機関に情報提供している。 ・地域ボランティアの協力により、花壇の改修や整備、プランターの土入れ替えが行われた記事が神奈川新聞に掲載されている。今後、園児たちとチューリップの球根やパンジー等を植える計画がある。 ・園の理念や基本方針、利用条件、サービス内容等についての問い合わせについては、法人独自のホームページをはじめ、入園のしおりに明記されており、常時説明・対応できるようになっている。
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れマニュアルのほか、「ボランティアのしおり」(ボランティアを始める前に、保育園の機能と役割、お願い事項<守秘義務や個人情報保護、ボランティア期間と時間の確認、服装>等を記載)や要覧、園だよりが整備されている。 ・ボランティアの受け入れにあたっては、職員会議や園だより、掲示等を活用して、園としての基本的な方針(考え方)が理解されるよう説明している。 ・区内の中学校などが(職業)体験型ボランティアとして活動を行っており、学校の先生からは「ちょっと学校に来るのが苦手な生徒もいるが、参加した生徒の表情や感想を聞くと、むしろ学校より生き生きしている子もいる。」という声も聞かれ、ボランティア活動の大切さと重要性を感じている。園でも学齢期に乳幼児とのふれあい・体験したことが将来の「幼児虐待」等の抑止に繋がることも期待し、積極的に受け入れを行っている。 ・活動したボランティアから寄せられる感想文や礼状を読むことにより、就任(職員採用)当時の初心を思い返したり、職員の振り返りの機会にもなっている。 ・実習生受け入れマニュアル(実習のしおり)があり、オリエンテーションで園の方針や利用者への配慮、準備する物などを説明している。 ・実習生の受け入れにあたっては、職員会議や園だより、掲示等を活用して、園としての基本的な方針が理解されるよう説明している。


評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員採用は法人全体で行い、法人理念や保育方針を説明すると共に、その考え方に沿った人材を採用している。 ・現職員には、毎年秋頃に本人の意向（退職や休職予定等の有無）を確認し、休職等する職員がいる場合には、後任者と現職とが共に保育にあたり、保護者や園児に心理的負担等がかからぬよう引き継ぎが行われている。 ・職員の経験年数別に 4 段階（経験 1 年未満＜新任職員＞、経験 5 年未満＜新任～中堅職員＞、経験 5 年以上＜中堅職員＞、指導的職員）に分け、それぞれに期待される職員像に基づき、職員研修計画一覧が毎年度ごとに作成されている。 ・主な研修内容としては、法人全体研修 4 回（個人情報保護、発達障害、子どもの表現活動など）、園内研修（発達、食育など）、他園見学をはじめ、横浜保育センター、福祉保健研修交流センター・ウィリング横浜、全国社会福祉協議会、横浜市こども青少年局などが主催する各種研修となっている。 ・毎年度末には、一年間の振り返り（「1 年間の反省と来年度に向けて」というシートを園独自で活用し、職員個々の反省や自身で変わったと思うこと（気づき）、次年度に向けて取り組んでみたいこと（目標）、次年度の希望クラスと理由達成状況を作成）が行われ、自己評価を行うと共に、次年度に向けての取り組みの目標設定がなされている。 ・常勤・非常勤を問わず、法人研修と園内研修は定期的実施され、必要な職員が受講できるようになっている。研修に参加した職員は報告書を作成するが、この記録が次年度の研修計画に反映されている。 ・非常勤職員も法人研修やその他必要な研修、話し合いに参加し、福祉に携わる職員としての自覚と知識を得る機会を作っている。 ・非常勤職員の指導担当職員（主任とチーフ）が定められ、必要に応じて助言、指導が行われている。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加職員は事前に目標と心構えを園長に提出し、事後に報告書を作成、達成度の効果測定を行うと共に、次年度への取り組みにつなげる自己評価を行っている。 ・法人内に 10 プロジェクト（10 の委員会組織：明日の久良岐を考える検討会をはじめ、人事考課、コンプライアンス（法令順守）、防災委員会、法人研修、研修体系化、事故・苦情体系化、公益通報者保護規定、環境整備、法人広報誌）が設置され、現場の課題や問題点をきめ細かく職員から吸い上げ、法人全体のサービスの向上につなげるしくみがある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顧問弁護士や療育・教育関係等の外部専門家の意見を取り入れ、職員の援助技術向上に取り組んでいる。 ・ 研修参加者が研修内容等を園内で伝達することを通し、自己研鑽の機会となっている。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園行事(こどもの日、コンサート観劇、納涼会、運動会、くらき祭、生活展、クリスマス、もちつき、豆まき、お遊戯会、卒園式など)の企画実施を多くの職員が担当することにより、職員全体の連携を育む機会となっている。 ・ 職員からの意見を取り入れながら、H17 年度には主に安全管理に対応するマニュアルを作成したが、現在も更なるマニュアルの作成・整備を全職員参加で行っている。 ・ 勤続年数の長短を問わず、どの職員も気軽にサービス改善に向けての提案ができる環境(雰囲気)があり、可能なものは速やかに実践されている。 ・ 毎年度末(3月)に1回、園長による職員個別面接を行っている。面接では、「1年間の反省と来年度に向けて」というシートを園独自で活用し、人事考課すると共に職員ひとり一人の満足度や要望も把握するよう努めている。 ・ 各種委員会活動やプロジェクトへの参加により、職員のモチベーション向上と自己研鑽機会による人材育成が図られている。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人全体で理念をより高めていくため、「コンプライアンス(法令遵守)委員会」等を設け、職員職務心得をはじめ、個人情報保護ガイドラインを作成している。 ・ 毎年度発行される法人広報誌「久良岐便り」(年4回発行)に事業計画・予算、事業報告・決算なども掲載し、職員・利用者のみならず、ホームページで同様の情報を広く市民に向けて公開・発信している。 ・ 環境配慮について、法人内の委員会活動を中心に様々な取り組み<例えば、G30(ゴミ30%減量化)推進運動>が実践されているものの、現段階で園の方針や目標の中に環境配慮の考え方が明確に位置づけられるまでには至っていないことが惜しまれる。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年度当初に全職員に配布・説明される冊子に法人理念や園の保育方針、倫理等が明文化されており、職員会議や法人全体研修などの機会を通じて、説明され理解・浸透が促されている。 ・ 保護者との関係では、個人的なレベルでも園全体のレベルでも、保護者との連携により、継続的に意見や要望を汲み取り反映するよう努めている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の10プロジェクト(「明日の久良岐を考える検討会」をはじめとする10の委員会活動)が職員参加により設置され、現場の問題点や課題を職員個々から吸い上げ、法人をあげて改善に向けた取り組みを行う仕組みがある。 ・H17年度より主任保育士を置き、園長と職員のパイプ役的なキーパーソン(位置づけ)となっている。主任にはきめ細かく各クラスに関わってもらうため、乳児と幼児のチーフを配属している。(乳児チーフは主任が兼任)また保育にも積極的に関わり、その都度発生するクラスの問題や課題に対応するよう努めると共に職員個々の取り組みへの意欲等を把握できるように努めている。 ・主任は園長と保育士間のパイプ役となるだけではなく、日々の保育を通して気づいたこと等、園長へ助言も行っている。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人常務理事が全国社会福祉協議会等の役員であるため、いち早く国や市の福祉・保育に関する情報を入手しやすい状況であり、これらの情報を活かして、法人全体で話し合う機会が確保されている。 ・法人全体で人権・権利擁護<コンプライアンス(法令遵守)>に関する問題を重要視しているため、顧問弁護士等による研修や学習の場を設け、園全体の取り組みにつなげている。 ・法人の10プロジェクト(委員会活動)を職員参加で設置し、現状の課題や問題点について検討を重ね、法人全体の改善に反映させると共に、次代の施設運営に備え、幹部会議を毎月開催し、後継者を含めた人材育成に努めている。

家族アンケート取りまとめシート <久良岐保育園>

結果の特徴

【調査対象】

久良岐保育園の全利用（園児）129名に対する保護者100家族（世帯）にアンケートを実施した。

【調査方法】

事前に保育園と評価機関の連名のアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んでもらい、2～3日後に同じ方法で本アンケートを手渡してもらった。アンケートは約2週間の回答期間（平成18年10月10日～10月24日）を設け、直接評価機関に返送してもらった。

【回答があった利用者及び回答者の概要】

利用者総数／ 129名
 調査対象総数／ 100家族・保護者（世帯）
 有効回答数／ 68通
 保護者（世帯）総数に対する回答者割合（％）／ 68.0％

【回答があった利用者の内訳】

回答者のクラス	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
	10.3%	11.8%	16.2%	19.1%	20.6%	17.6%	4.4%

（％は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる。）

【利用者家族アンケート全体のコメント】

- 「総合の満足度」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が94.1%となり、個別の要望はあるものの概ね満足している様子がうかがえた。
- 項目別では、「遊び」についての5つの質問項目すべてで「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が85%以上となり、そのうち「園の遊びについて」（「満足」のみ57.4%、「満足」＋「どちらかといえば満足」94.2%）や「園のおもちゃや教材について」（52.9%、94.1%）、「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動について」（60.3%、85.3%）など3項目では積極的なプラスの回答である「満足」だけで50%以上になり、自然環境を存分に活用し、子どもの自主性や主体性を大切にしたい遊びが保護者から好評であることがうかがえた。個別の記載でも、「のびのび遊べて安心できる」という意見が複数聴かれた。
- また、「生活」についての6項目でもすべての項目が「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が80%以上で、特に給食についての2項目「給食メニューの充実」（60.3%、92.7%）、「お子さんが給食を楽しんでいるか」（66.2%、95.6%）では、「満足」のみで約60～66%、プラスの回答は90%以上となった。
- その他で満足度の高かった項目としては「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」（64.7%、94.1%）「園舎、園庭などの施設」（61.8%、94.2%）、「園だよりや掲示などでの情報提供（52.9%、94.1%）」、「園行事の開催日や時間帯への配慮」（54.4%、94.1%）などがある。
- 一方で「不満」や「どちらかといえば不満」の回答が20%を超え、やや満足度が低い項目となったのは、「外部からの不審者侵入に対する備え」や「送り迎えの際の子どもの様子の説明」、「保育や行事に保護者の要望が活かされているか」の3項目で、個別の要望でもさらなる安全対策を求める声が聴かれた。また、「不満や要望が気軽にいえるか」でも、「不満」や「どちらかといえば不満」の回答が20%近くとなった。
- 保育目標・方針については、73.6%が「知っている」、「まあ知っている」と答え、知っている保護者の94.2%が「共感できる」、「まあ共感できる」と回答し、園の目標・方針が保護者に広く支持されていることがうかがえた。

調査結果

■保育園の基本理念や基本方針について

(%は小数第1位までの表示とし、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる)

あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
(人)	11	39	7	6	4	1
(%)	16.2%	57.4%	10.3%	8.8%	5.9%	1.5%



あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	34	14	2	0	0	1
	66.7%	27.5%	3.9%	0.0%	0.0%	2.0%

■保育園のサービス内容について

問2 入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	36	15	2	1	12	2
	52.9%	22.1%	2.9%	1.5%	17.6%	2.9%
	その他：・見学していない。(7件) ・希望しなかった。 ・見学できることを知らなかった。 ・申し込んでいない。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	35	19	5	0	5	4
	51.5%	27.9%	7.4%	0.0%	7.4%	5.9%
	その他：・受けていないので分からない。					
入園時の面接については	26	27	2	2	6	5
	38.2%	39.7%	2.9%	2.9%	8.8%	7.4%
	その他：・面接はなし。(6件)					
お子さんの様子や育成歴などを聞く対応には	32	22	5	1	4	4
	47.1%	32.4%	7.4%	1.5%	5.9%	5.9%
	その他：・特に聞かれなかった。(3件)					

[久良岐保育園]

園の目標や方針についての説明には	27	23	6	1	8	3
	39.7%	33.8%	8.8%	1.5%	11.8%	4.4%
	その他：・特に説明なし。(4件) ・覚えていない。 ・今年出来たみたいだがよく分からない。					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	33	23	8	0	2	2
	48.5%	33.8%	11.8%	0.0%	2.9%	2.9%
	その他：・壁に貼ってあるが見ていない。 ・上の子がいるので特に聞いていない。					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明について	22	34	6	0	2	4
	32.4%	50.0%	8.8%	0.0%	2.9%	5.9%
	その他：・説明を受けていないと思う。 ・市立に比べると諸経費がかかり過ぎるのでは？。					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	24	35	5	1	2	1
	35.3%	51.5%	7.4%	1.5%	2.9%	1.5%
	その他：・行事についての説明は具体的だが、保育についての説明はちょっと足りないように思う。 ・説明を受けていないので分からない。					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	15	33	10	5	4	1
	22.1%	48.5%	14.7%	7.4%	5.9%	1.5%
	その他：・不明。 ・要望をあまり聞いてこない。(2件) ・保護者の要望がどの程度あがっているのかも分からないし、どう活かされているのかは、あまり分からない。					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	39	25	1	0	3	0
	57.4%	36.8%	1.5%	0.0%	4.4%	0.0%
	その他：・室内遊びが多いのでは？。 ・一日どの位遊んでいるかよく分からない。 ・まだ、あまり分からない。					

[久良岐保育園]

園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように 置いてあるか、年齢にふさわしいか など)	36	28	2	1	1	0
	52.9%	41.2%	2.9%	1.5%	1.5%	0.0%
	その他:・あまり分からない。					
自然に触れたり地域に関わるなど の、園外活動については	41	17	5	4	1	0
	60.3%	25.0%	7.4%	5.9%	1.5%	0.0%
	その他:・上のクラスになると散歩が少ない。					
遊びを通じた友だちとの関わりや、 保育士との関係などについては	31	27	7	0	2	1
	45.6%	39.7%	10.3%	0.0%	2.9%	1.5%
	その他:・保育士によって対応に差があるように感じる。 ・特定の保育士の対応に疑問がある。「どちらか」というと不満に○ ・まだ、あまり分からない。					
遊びを通じたお子さんの健康づくり への取り組みについては	31	29	6	0	2	0
	45.6%	42.6%	8.8%	0.0%	2.9%	0.0%
	その他:・個人への配慮がちょっと不十分に感じる。 ・まだ、よく分からない。 ・やっているか分からない。					

「生活」について

	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
給食のメニューの充実については	41	22	4	0	1	0
	60.3%	32.4%	5.9%	0.0%	1.5%	0.0%
	その他:・魚のメニューを増やしてほしい。					
お子さんが給食を楽しんでいるか については	45	20	2	0	1	0
	66.2%	29.4%	2.9%	0.0%	1.5%	0.0%
	その他:・よく分からない。					
昼寝や休憩がお子さんの状況に 応じて対応されているかなど については	29	30	5	1	3	0
	42.6%	44.1%	7.4%	1.5%	4.4%	0.0%
	その他:・昼寝が長く、夜寝つかないことがある。「不満」に○ ・よく分からない。(2件) ・見ていないので分からない。					

家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	34	22	3	0	5	4
	50.0%	32.4%	4.4%	0.0%	7.4%	5.9%
	その他：・その経験がまだない。(3件) ・完了してから入園した。 ・よく分からない。					
お子さんの体調への気配りについては	36	26	5	1	0	0
	52.9%	38.2%	7.4%	1.5%	0.0%	0.0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	32	23	7	3	2	1
	47.1%	33.8%	10.3%	4.4%	2.9%	1.5%
	その他：・けがの連絡が遅かった。(「不満」に○) ・けがが多いように思われる。説明も不十分と感じる。 ・以前はよく話してくれたが、今はそれほどないように思う。					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園舎、園庭などの施設については	42	22	2	0	2	0
	61.8%	32.4%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%
	その他：・園舎が古いので災害時は、建物の耐久性が少し気になる。					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	30	30	6	2	0	0
	44.1%	44.1%	8.8%	2.9%	0.0%	0.0%
外部からの不審者侵入に対する備えについては	26	24	14	2	2	0
	38.2%	35.3%	20.6%	2.9%	2.9%	0.0%
	その他：・今後、セキュリティーカード等での入退出が出来るのが望ましいと思う。 ・乳児の玄関は簡単に入れてしまう。(「どちらか」というと「不満」に○) ・どのような備えをしているのかよく分かっていない。					
衛生管理や感染症対策については	29	31	6	1	1	0
	42.6%	45.6%	8.8%	1.5%	1.5%	0.0%
	その他：・床の清掃回数を増やしてほしい。					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	18	34	10	1	2	3
	26.5%	50.0%	14.7%	1.5%	2.9%	4.4%
その他：・園側の決めたことの説明だけで保護者の意見を話す機会が少ないように思う。 ・個別面談なし、懇談会でも一人一人話す機会が少ない。（「どちらか」というと不満に○） ・個別面談はない。（「どちらか」というと不満に○） ・個別面談はないので不満。						
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	36	28	1	1	1	1
	52.9%	41.2%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%
その他：・もっと早くタイムリーに発信してほしい。						
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	37	27	1	0	1	2
	54.4%	39.7%	1.5%	0.0%	1.5%	2.9%
その他：・土曜日でなく日曜日にしてほしい。						
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	19	27	11	7	1	3
	27.9%	39.7%	16.2%	10.3%	1.5%	4.4%
その他：・お迎えが遅い時は特に説明足りないように思う。（「どちらか」というと不満に○） ・職員によって対応が異なるように思われる。						
お子さんのに関する重要な情報の連絡体制については	30	29	0	4	3	2
	44.1%	42.6%	0.0%	5.9%	4.4%	2.9%
その他：・特になし。 ・よく分からない。						
保護者からの相談事への対応には	20	36	5	3	1	3
	29.4%	52.9%	7.4%	4.4%	1.5%	4.4%
その他：・分からない。 ・話せなくなったように感じる。（「不満」に○）						
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	28	25	5	4	4	2
	41.2%	36.8%	7.4%	5.9%	5.9%	2.9%
その他：・その経験がない。（4件） ・求職中に対応してもらったことがあった。（「満足」に○）						

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	38	21	3	1	2	3
	55.9%	30.9%	4.4%	1.5%	2.9%	4.4%
その他：・先生によって対応が異なるように思われる。 ・分からない。						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでるかについては	44	20	1	1	0	2
	64.7%	29.4%	1.5%	1.5%	0.0%	2.9%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	25	22	2	2	13	4
	36.8%	32.4%	2.9%	2.9%	19.1%	5.9%
その他：・アレルギーがないので分からない。(11件) ・今のクラスに(アレルギー児が)いないので分からない。						
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	21	30	7	6	2	2
	30.9%	44.1%	10.3%	8.8%	2.9%	2.9%
その他：・それは色々な事を考えると難しいと思う。						
不満や要望への対応については	17	29	6	5	7	4
	25.0%	42.6%	8.8%	7.4%	10.3%	5.9%
その他：・具体的にないので、対応の様子を見ていない。 ・もし言えば、きちんと対応してくれると思う。 ・我慢している。 ・不満を言う事自体、気を使うことがある。 ・言ったことがない。 ・分からない。						

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	無回答
総合満足度は	28	36	4	0	0
	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%	0.0%

利用者本人調査取りまとめシート（久良岐保育園）

結果の特徴

調査対象：園児 129 人のうち、園側に予めリストアップしていただいた 10 名（園児の 7.8%）を調査対象とした。〔1 歳児 2 人、3 歳児 1 人、4 歳児 1 人、5 歳児 3 人、6 歳児 3 人〕

項目	回答者年齢	人数	内訳	園全体の人数
保育観察	0～2 歳	2 人	女児 2 人	45 人
	3～4 歳	2 人	男児 2 人	55 人
本人聴き取り調査	5～6 歳	6 人	男児 2 人・女児 4 人	29 人

【調査方法】

《保育観察》

調査員 2 名が 0～4 歳の 4 名を保育の現場で、施設側から提供された利用者情報シートを参考に遊び・食事・排泄・午睡等の保育状況を観察した。

《本人聴き取り調査》

5～6 歳の 6 名を対象に、食事・遊び・排泄等について聴き取り調査を行った。食事については給食を共にしながら、また遊びなどについても活動中の子どもたちの脇で聴き取りを行い、より自然な形での意見聴取に配慮した。

【保育観察の結果】

《全体のコメント》

- 観察した 1 歳児たちは、絵本を読んでもらい、象さんを「おう、おう」と指差したり、壁掛けの陰に隠れて「いない、いないパー」を何度も楽しんだり、砂場のおままごとシーンでは、プリンや団子を作っては、友達に「どうじょ」と言葉を添えてあげたり、保育園生活を十分楽しみながら成長していく様子がうかがえた。
- 3 歳児では、複雑な積み木ブロックを直線に組み合わせて並べ、両手をあげてバランスをとりながら渡り歩き、にっこり笑顔を見せて「やったあ！」と叫んでは繰り返す姿があった。
- 4 歳児の造形遊びでは、子ども一人ひとりが思い思いに想像を膨らませ、製作に没頭していた。出来上がると「ヤッター！ヤッター！」と両手を挙げニコニコして友達に見せながら喜ぶなど、それぞれ工夫や充実した達成感を味わっている場面が観察された。
- うさぎ跳びでは、月齢により発達の違いがあり、うまく飛べる子もそうでない子も保育士の適切な一言(声かけ)でにっこり満足して席に戻っていった。また、互いに尊重する気持ちも育っており、順番を待っている子ども達も「がんばれ～」などと声をかけあう微笑ましい様子が見られた。

<遊び> 園庭での遊びでは、砂場遊びをする子、三輪車を乗り回す子、アスレチックに興じる子、おままごとをする子など、思い思いに好きなことを生き生きと楽しんでいた。ルール違反や危険行為への保育士のすばやい察知や気配りがあり、遊ぶ時間が充分確保され、広い園庭を思う存分楽しんでいた。

<食事> 乳児は発達段階に分かれ、保育士に一口づつ食べさせてもらうグループ、スプーンや手を使い保育士の声かけで食べるグループ、スプーンで何とか自分で食べるグループなどに分かれ、それぞれ、最後まで自分のペースで、友達と声を立てて笑いながら食事を取っていた。幼児のクラスでは 4 グループのテーブルに分かれ、会話を楽しみながら食欲も旺盛で、おかわりする子も多かった。終わりには、全員揃って「ご馳走様」の挨拶も聞かれた。

<排泄>おむつ交換は、保育士の言葉かけでむずかる子もなく、スムーズに行われていた。「シーシーね」と言いながら友だち同士トイレを上手に使う場面も見られた。

<午睡>午睡時には遊び疲れたこともあり、ほとんどの子どもがすぐに入眠していたが、眠くない子もゴロゴロしているうちに気持ちよさそうに寝入っていた。朝早くから乳児のぐずる子を保育士が抱き、親身になって寝かせていたが、目覚めたときにはすっきりと上機嫌になっていた。

【本人聴き取り調査の結果】

《全体のコメント》

- 緊張したせい、聴き取りの対象児本人が話すより、周りの子が活発に話すこともあったが、慣れてくるとのびのびと質問に応じ、回答者の概ねが保育園生活を楽しんでいることがうかがわれた。中でも遊びに関しては、全員が「保育園の遊びは楽しい」と答え、広い園庭や室内での遊びを十分楽しんでいることがうかがわれた。
- 食事については全員が「楽しみである」ことや「お替りができる」ことなど、また「先生は優しい」との回答も全員からあり、「先生大好き」、「担任以外の先生とも遊んだことがある」との答えもあった。
- おもらしの処置については、「おもらしした事がない」と答えるなど、あまり質問を歓迎していないようであった。

【項目別の特徴】

<遊び>全員が「保育園での遊びは楽しい！」と答えており、室内でのお絵かきや広い園庭を存分に走る自転車遊びが好きな子が多かった。

<食事>食事の時間が楽しいこと、お替りができること、残してもいいこと、「残しなくなったら、それでもちょっと食べてから、残していい」などの回答が聞かれた。

<排泄>「行きたい時にトイレに行っていますか」の問いには「先生に断って行く」と答える子が多かった。「おもらししたときは、やさしく、直ぐきれいにしてくれますか」との問いには半数が、「おもらししたことがないから…」とプライバシーに触れたくない回答であった。

<清潔・着替え>「けがをした時は、優しく慰め、面倒をみてくれますか」の問いには、「消毒してくれる」、「薬をつけてくれる」など、全員が肯定的な回答をしている。

<権利>多くの子が「先生は話を聞いてくれる」と答えている。ケンカした時など「先生にいろいろ話をしても悪い方が叱られる」という回答もあった。名前は「〇〇さん」等と呼ばれている子もいた。

<職員対応>「先生は優しい」、「担任以外の先生も面倒を見てくれる」と全員が答えている。「園長先生とは話したことはあるが、遊んだことはない」と答える子や「優しいよ」という声も聞かれた。

事業者からの意見(コメント)

18年度 久良岐保育園は56年の歴史の歩みを進める中で、ベテラン職員が退職し、新規職員と交替。運営的にも法外扶助費の見直しが計られる状況にありました。

長期に渡りこの地で多数のお子さんの保育に携わり信頼を得て参りましたが、今までにない社会福祉の流れの変化は、かつて経験したことのないものとして受けとめてきました。

その中でどうしたら地域や保護者の要望に応えつつ、サービスの質の向上を図れるのか、あるいは新規職員に本園の歴史や特徴を引き継いでもらいながらも全体の保育の質を向上させていくのか、新しい課題も抱えました。

そこで法人の事業計画に「第三者評価の受審」が項目のひとつとしてたてられましたので、本園としても「保育の質の統一化」を目標に第三者評価を受審することに致しました。

受審に際し勤続35年の保育士も新卒の職員も同じスタートラインに立ち、新しい課題に向かって道を歩んで行く姿勢。皆が同じ目標に向かっていく姿勢こそ、56年変わらない職員の姿なのだと思います。

自己評価に取り組み、ひとつの業務や今日1日の仕事に真剣に対峙し、その積み重ねを行い、「自己評価はよりよいサービスへの意欲 = 志(こころざし)なのだ」と確認をして全体の評価を提出しました。

が今回の評価結果につきましては自己評価よりも高い評価となりました。しかし、この評価を経て明確になった課題に対して、評価結果に甘んずることなく、歩み続けていきたいと強く思っています。